

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月25日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670102542号		
法人名	社会福祉法人 愛心会		
事業所名	グループホーム 桜		
所在地	鹿児島市 下福元町 9057番地 (電 話) 099-210-8655		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年3月16日	評価確定日	平成21年3月28日

【情報提供票より】 (21年 2月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 11月 10日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 13人, 非常勤 3人, 常勤換算14.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷 金	有 (円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有 (300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	○有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要 (2 月 13 日現在)

利用者人数	15 名	男性 2 名	女性 13 名
要介護1	4名	要介護2	4名
要介護3	3名	要介護4	4名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 86.9 歳	最低 78 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中山クリニック・鹿児島徳州会病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

名称のとおり桜の木々に囲まれ、野鳥の声に癒される自然豊かな場所に立地しているホームである。それぞれの居室にトイレと洗面台が設置してあり、プライバシーが確保されている。入居者と職員は共に犬や猫をかわいがり家族との連携も密に図られ、ホームでの暮らしをお互いに愛情を持って支えあっている。職員は理念にもとづいてみんなで、ゆっくり・楽しくケアに取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	職員は鍵をかけることの弊害を起こさないように、見守りや声かけを徹底し、日中は鍵をかけず入居者の自由な暮らしを支援している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は全職員に評価の意義を伝え、全員で取り組み、評価を通して改善点をミーティング等で話し合い、サービスの質向上に活かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族会と同日に実施する等工夫し、家族の参加も多く、いろいろな意見を聞く機会になっており、受けた意見を運営に反映してサービスの質向上に活かしている。地域とのつきあいについて話し合い、地域の夏祭りに参加し交流を行なっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	相談・苦情窓口や苦情箱を設置している。家族会や運営推進会議に家族の参加を呼びかけ、意見を表す機会を設け、運営に反映させるよう努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	畑仕事の時に住民と話したり、地域の夏祭りに参加して、地域との交流をしている。隣接するケアハウスの利用者たちがお茶のみに立ち寄りたり、中学生の体験学習や介護実習生を受け入れるなど交流を行なっている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての役割を考え、職員で話し合い、事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホール入り口や事務所に掲示し、朝礼時に唱和し、全員で理念の実践に向けてケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	畑仕事の時に住民と話したり、地域の夏祭りに参加して地域との交流をしている。隣接するケアハウスの利用者たちがお茶のみに気軽に立ち寄り、中学生の体験学習や介護自習生を受け入れるなど交流を行なっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は全職員に評価の意義を伝え、全員で取り組みを行い、評価を通して改善点をミーティング等で話し合い、サービスの質向上に活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に定期的開催している。ホームの現状や利用者の様子などを報告し、そこで出た意見を受け、サービス向上に活かすよう取り組んでいる。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者に日頃から、電話等で相談やアドバイスを受れたり、運営推進会議等に参加してもらうなど協働関係を築いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、ホーム便りで日頃の様子や行事の写真などを報告している。個別に担当者から利用者の状況や職員の紹介・残金なども報告し、面会時に金銭出納帳を確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口や苦情箱を設置している。家族会や運営推進会議に家族の参加を呼びかけ意見を表す機会を設け、運営に反映させるよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニットの利用者を全職員でケアする方法で、利用者馴染みの関係作りを実施している。離職は少なくベテランの職員が多い。新規採用の職員は、勤務に配慮し利用者のダメージを防ぐ工夫をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修会は交代で受講したり、母体病院・地区の協議会・ホーム内の研修会などで全職員が研修を受ける機会を確保している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会に加入し、同業者と交流する機会があり、共に勉強会を行っている。法人内の相互交流等を通して、お互いにサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望があれば、自宅へ訪問し利用者や家族に見学を案内し、馴染みの関係を作るようにしている。入居後も家族と相談し利用者が安心して過ごせるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の思いに共感する事を第一に、家族と接するような気持ちで支援している。支援しながら学ぶ事が多く、利用者の笑顔を大切に、共に支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の会話の中で、思いや意向を汲み取り把握するよう努めている。意思疎通が困難な方は家族からの情報や日頃の様子などを話し合い、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全職員でカンファレンスを実施し、家族や主治医の意見等も考慮し、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	目標の期間に応じ半年毎に見直している。又、入退院後の見直しなど必要に応じて、現状に即して計画を作成している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制による健康管理や主治医との連携・受診介助・通院介助・買い物支援など柔軟に支援している。		
。					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の同意を得て、協力病院の訪問診療を受診している。眼科や歯科受診等は家族と連絡を取り、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた文書を作成し利用者に説明している。状態変化時は家族や医師・看護師等必要な関係者と話し合い、方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は採用時に、個人情報保護について明記された誓約書に、署名押印をしプライバシーを損ねるような言葉かけや対応に留意し、気づいた場合は、お互いにアドバイスして、プライバシーの確保を徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの体調に合わせて、起床・食事・入浴など希望に添って支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえや後片付けなど一緒に行ない、入居者と職員が楽しく食事をしている。外食なども計画し、食事を楽しむことができるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望があればいつでも入浴できる。入浴剤を入れて温泉の雰囲気を出すなど工夫して、楽しく入浴している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器洗いや洗濯物たたみ・草取りなど力量に応じた役割や歌やテレビ鑑賞・レクリエーションなど気晴らしの支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物など希望に添って出かけている。ドライブや初詣・花見などを計画し、外出の機会を作っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者や職員は日中鍵をかけることの弊害を理解しており、声かけや見守りを徹底し、鍵をかけないケアに取り組み、入居者の自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署と協力し避難訓練を実施している。災害に備え、水やカセットコンロなど準備している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量の摂取状況はチェックしている。栄養バランスについては隣接するケアハウスの栄養士にアドバイスをもらっている。刻みやトロミ食など提供し、一人ひとりの状態に応じて支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所はオープンキッチンで、畳やソファコーナーがあり、花が飾られ音や光も配慮され、居心地の良い共用空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にトイレと洗面台があり、プライバシーに配慮されている。使い慣れたタンスやテレビ・椅子などを持ち込み、入居者が安心して過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。